

「認知症希望宣言(仮称)」の検討について

1 これまでの経過について

(1) 上田市議会 令和5年3月定例会

- ・世田谷区が、認知症になってからも誰もが自分らしく希望を持って暮らすことのできる地域共生社会を目指すために制定した「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」と同様の条例(宣言も可)を上田市でも制定したらどうかと提案があった。

(2) 令和5年7月6日 第1回 認知症高齢者等支援ネットワーク協議会

【協議内容】 上田市版認知症希望宣言・条例の制定について検討

【主な意見】

- ・認知症の症状を遅らせるためにも、人との関りが大切である。出かけるための足も重要である。症状が出始めの頃に発見できて、何か少しでも関りができれば、遅らせることができるのではないかと考えている。このような事も宣言等に含められれば良い。
- ・家庭内の環境整備で、認知症の方は道具を使いたくても、家族が危ないからと利用できない場合があり、本人もあきらめる場合もある。逆に家族がここまで頑張っているようにしようと応援する場合もある。認知症の進行だけでなく家族の理解にも差がある。認知症を深く理解することで、家族全員が幸せになれる方法を考えていきやすくなると思う。
- ・条例又は宣言が、認知症当事者の尊厳を大切に、当事者自身の言葉を盛り込んだ宣言になればいい。

(3) 令和6年1月16日 検討委員会 (検討部会)

【参加者】 飯島会長、遠藤委員、山崎委員、宇佐美委員、杉本委員、田中委員
(公益社団法人)認知症の人と家族の会長野県支部 坂口氏

【協議内容】 「上田市認知症希望条例・宣言等について」今後の方向性について

【主な意見】

- ・高齢者全体を対象とする希望条例・宣言にすると、宣言の目的があいまいになってしまうため、認知症に絞った宣言にするほうが良い。
- ・共生社会の実現を推進するための認知症基本法では、最終的には「共生社会の実現」を目的としているため、市民皆で同じ目的に向かって話し合いを続けながら作成できたら良い。
- ・「宣言」をしても、関係ないと思ってる人はスルーしてしまうので、「認知症について考えよう」と少しでも多くの人に思ってもらえる宣言になれば良い。
- ・認知症に絞ったほうがメッセージが伝わると思う。宣言して終わり、とならないよう次に繋がる宣言になると良い。
- ・条例は、市民に義務を課したり権利を制限するもの。都市宣言とは、市が未来に向けて住みやすく魅力的なまちにするため、市を挙げて取り組む基本方針を明らかにするもの。

(4) 令和6年2月7日 第2回 認知症高齢者等支援ネットワーク協議会

【協議内容】 「認知症希望宣言(仮称)」について

【主な意見】

- ・認知症の宣言等について、多くの人が議論に参加すればそれだけでも大きな価値がある。
- ・自治会内の回覧板は、地域とつながる大事な一場面でありその役割は重要である。認知症の方にとっても、社会の中で自分が認められているという証としても非常に重要なこと。社会の一員として認知症の人の尊厳を大事にしながら、地域住民の皆で見守っていくことが重要だと思った。
- ・一日でも早く専門医へ繋がることも、啓発していくことが大事である。
- ・自分がこれまでと違っておかしい、変だと自覚してから、病院で認知症と診断されるまでの空白期間が一番不安。そこを支える体制も必要である。
- ・認知症当事者も、自分が認知症と診断されたときは、認知症に対して偏見があったから絶望を味わったという。その偏見を減らすことが大事。
- ・初期症状の認知症の方は、「認知症」という言葉を嫌がる方も多い。
- ・市民も地域住民も家族も、どのように認知症の方に接して良いのか分からないという状況がある。この状況の中で、尊厳を持って地域で暮らすことは難しいと思う。
- ・独居が増えている中で、当事者のことを知っている人が何人もいることが大事。認知症の方を取り巻く地域のつながり、その環境を作ることが備えとなり、支える方法となる。
- ・もっとオープンに情報を集め、当事者の意見を入れたほうが良い。
- ・本人や本人を支える側の声など、多くの声を収集して欲しい。
- ・周りから「支えてあげたい」と思っている人の思いも入れて欲しい。

(5) 令和6年2月15日 本人ミーティングうえだ

- ・認知症の本人から「この宣言がある事で、認知症の人が区別されない宣言になって欲しい。」と意見があった。

2 認知症希望宣言について

- | | |
|-----------|---|
| (1) 名称(案) | 別紙 |
| (2) 宣言の目的 | 認知症の人が、いきいきと生きがいと希望を持って、安心して地域で暮らしていけるまち上田を作るために、あらゆる世代の全市民が一丸となって取り組むため。 |
| (3) 宣言文 | 別紙 |
- ・4つの区分からなる宣言を策定する。
 - ① 正しい理解、環境づくり
 - ② 本人意思
 - ③ 予防
 - ④ 市民全員でまちづくり

(4) 宣言のお披露目イベントの開催(予定) 令和7年度に実施

① 宣言者 市長、認知症希望大使 春原治子さん等の本人など

② 参加者 千曲高校や上田西高校の生徒などにも声をかけ、参加依頼。

3 今後のスケジュール(案)

時 期	内 容	詳 細
令和6年8月30日	第一回 認知症高齢者等支援ネットワーク協議会	市長諮問
令和6年9月から10月中旬まで	意見聴取	・本人ミーティング ・アルツハイマーデーイベント
令和6年9月末まで	アンケート実施 ・ 集計 (10月末までに)	アンケート 3,000人程度
令和6年10月31日	第二回 認知症高齢者等支援ネットワーク協議会	素案決定
令和6年12月	12月議会 教育厚生委員会へ途中経過を報告	
令和7年1月	認知症高齢者等支援ネットワーク協議会 市長答申	
令和7年3月	3月議会 上程 宣言の議決	
令和7年9月	認知症の日イベントでお披露目	

4 その他の活動(案)

ア 記念講演会の開催…来年度 宣言時に講演会を開催し機運を高める。

イ 宣言者はオレンジサポーターとなり、地域で認知症になっても大丈夫な市であるという啓発活動をする。